

箆笥の中に眠る着物を

ひとりで5分で着られる

外国人仕様にリメイク!



1 下を履いて



2 上を羽織って



3 帯を着けたら完成!



帯は巻いて留めるだけ、後ろ姿も完璧に仕上がる。(円内写真上)

また、アタッチメントで延長することもできるので、体型も関係なく楽しめる。(円内写真下)



シリアル番号付

外国人向けにワンタッチで着られるようにリメイクすることで、着物の廃棄ゼロを目指す「しろくま着物」。大胆に上下をカットすることで、ここまで着やすくなるのかと驚くほど変身する。着付けができる場所が減少しているだけに、日本でも新たなムーブメントを起こすかも。



汚れた着物や帯の使える部分はバッグ等に加工(左・中) ウレタン製の草履も用意されている(右)

最近急増中の訪日観光客たちの目には、あまりにも美しい民族衣装として映る着物。観光地でレンタルし、嬉しそうに自撮りした写真をSNSへとアップする外国人女性も少なくない。だが、肝心の私たちは、結婚式や入学式、成人式などに着る特別な装いとして捉えるようになってしまった。

では、若い頃に購入した日本の女性たちは、着物をどう扱っているのだろうか。大半は箆笥の中で眠らせているようだが、中には仕方なく処分するケースも。絹100%のものなど、当時は数十万円から数百万円もした着物を着る機会がなく、しかも捨てられてしまうなんて、「もったいない」どころの話ではない。

海外に広がる日本ブームでせっかく注目度が高まっているのに、このままでは日本が誇る美しい服飾文化が廃れてしまう。「何とか新たな活用方法を見出すことができないか」と考えて妙案を得たのが、大阪市の株式会社ウェイバースインターナショナルだ。

目からウロコの発想の転換

同社が手がける「ピンテージ着物プロジェクト」は、日本伝統の着物文化を訪日外国人たちに楽しんでもらおうという試みだ。最近の外国人観光客は、ドラマやアニメなどで日本文化を疑似体験している層が非常に多く、独特の美を表現する着物への関心も高い。だが、着物にはひとつ弱点がある。それは、ひとりで着ることができないこと。母国に持ち帰っても着付けができないため、購入を諦める外国人も多いというのだ。

日本人でもハードルが高い着付けだが、逆に言えばその障壁を取り払ってあげれば、今以上に人気が高まるはず。そこで同社

では、ピンテージ着物を素材に独力で着られるよう加工。「しろくま着物」というブランドを立ち上げた。

実際にしろくま着物を着てみると、その手があったか!と目からウロコ状態。まず「上下」という概念を採り入れ、下は履くだけ、上は羽織るだけというスタイルに。最後はワンタッチ式の帯を巻くだけというイージーさなのだ。これなら、所要時間は長くて5分程度だろうか。なるほど、これなら帰国後もひとりで着られるはずだ。

内外の販売パートナーを募集中

そのクオリティは、写真の通りだ。日本人が見ても「着物そのもの」で、パッと見では見分けがつかないようなレベル。また、着物文化は周辺アイテムも重要ということで、履きやすく疲れにくいオリジナルのウレタン製の草履を新規開発。外国人向けサイズとして33センチまで製作するという徹底ぶりだ。さらに、汚れがある着物は鞆へとリメイク。外国でも安心して使えるようにファスナーを付けて、小粋な和風アイテムへと仕上げていく。

しろくま着物は、すべてタブにシリアル番号入り。販売済みの商品も含めて全コレクションが同社サイトに掲載される。また、クリーニングサービスも用意するなど、至れり尽くせりで海外の着物ファンをサポートする。

人気が高まる日本の文化をより積極的に世界に発信したい。そんな想いで立ち上げた「しろくま着物」は、内外における販売パートナーを募集中だ。クールジャパンのムーブメントの中でビジネスチャンスを掴みたいなら、ぜひ下記まで問い合わせを。

